

管内農業高校に対する担い手育成支援の取組

東部家畜保健衛生所

○國本怜奈・弘中由子・小南直司

畜産業での高齢化等による農家戸数の減少が続いている中、地域の農業高校は、次世代の担い手育成の場として重要である。当所は、担い手確保に繋げるため、「やまぐち和牛・未来への絆づくり事業（絆事業）」を活用し、管内農業高校（農高）生物生産科の生徒を対象に、畜産業への理解醸成を図る取組を行ったので報告する。

1 取組

1) 自家産肥育牛の生産販売に係る支援

農高は、損徴により繁殖供用不可となった牛を肥育し、本年度の学園祭にて精肉販売することを決定した。当所はこの取組に対し、肥育牛育成では、JA 及び畜産技術部と連携し、飼養管理技術指導や超音波肉質診断を行った。と畜及び販売では、市、管内食肉事業者と連携し、食肉センターの見学や、販売に向けた精肉加工実習の機会を設けた。

2) 共進会出品に向けた支援

農高の繁殖雌牛育成技術向上を図るため、山口県畜産共進会和牛共進会種牛の部（県共）及び全国和牛能力共進会特別区（全共）への出品を支援した。関係機関と連携し、出品牛選定、育成、調教に係る指導を行うとともに、農高にとって初となる地域共進会への出品を調整し、県共への予行演習の場を設けた。全共については、ゲノム育種価等を活用した交配計画への助言等を行った。

3) 取組の成果を確認するため、生徒へアンケート調査を実施した。

2 結果

支援により、肥育牛の生産から販売まで一貫した過程を生徒に経験させることができた。肥育牛の生体重は、肥育開始時は 361kg、と畜時は 604kg で、枝肉重量は 371kg となった。学園祭では、生徒自ら販促用ポップを作成する等、主体的な取組もあり、準備した計 507 パックは、即日完売した。

県共では、若牛 3 区において優等 2 席を受賞し、育成技術の向上が確認された。また各共進会にて、地域畜産農家から助言を受ける等、積極的な交流も見られた。全共に向けては、妊娠牛を除く繁殖雌牛全頭に候補種雄牛を交配した。

取組に対し、全員が「とても良い経験だった」と回答した。進路については、畜産系の国立大学や専修学校に計 3 名合格し、その全員が、本取組は進路決定に影響し、さらなる向学心に繋がったと回答した。

3 まとめ

絆事業を活用した一連の取組は、食への感謝や命の尊さを実感させる最良の契機となり、生徒の畜産業に対する理解が深まった。今後も、農高における一層の意欲向上及び飼養管理技術向上を図り、担い手の確保・育成に努めていく。